

「地域と学校の新しいカンケイ」～WIN WIN より Happy Happy～

【6月21日放送内容】

DJ：今日は、浜小学校のコーディネーターの島田佐知子(しまだ さちこ)さんと社会教育課の増田さんにお越しいただきました。お二方、よろしくお願ひします。

島田・増田：よろしくお願ひします。

DJ：さて、島田さん、浜小学校は地域学校協働活動の取組で文部科学大臣表彰を受けられたそうですね。おめでとうございます！

島田：ありがとうございます！

DJ：本当にすごいことですよね。今日は、受賞につながった取組みについてご紹介いただきたいと思ひます。さて、浜小学校は、平成30年に地域の方が学校と子どもたちを支える「Happy 応援ネット」を立ち上げられまして、定期的に「意見交換会」をされているとお聞きしましたが、どんなことを話し合われているのですか。

島田：地域で活動されている方々に学校に来ていただいて、フラットな「意見交換会」というスタイルで始めました。まず、校長先生から浜小学校の子どもたちの様子やどんな子どもを育てていきたいかお話しいただいて、地域の方に手伝ってもらいたいことや相談したいことを教えていただいたんです。そして、地域の方も浜小学校の校区内や子どもたちの印象をお話されたりして、自分たちがどんな風に学校の役に立てそうかなっていう話をしながら色んな事を教えていただひています。

DJ：はい。島田さんがコーディネートした取組みで好評だったものはありますか。

島田：そうですね。いくつかある中でまず一つ目、2年生のまち探検という授業のお手伝ひをさせてもらったことがあります。2年生の先生から「社会科の授業でまちの中を探検するんだけど、先生自身が町のことをよく知らないし、訪問先を探したり受け入れの交渉や事前の打ち合わせをする時間がなかなか持てないのよね。」とおっしゃって、力を貸して欲しいと依頼がありました。

増田：先生方は、地域ごとにどんな施設やお店があるか、あまり詳しくは知りません。

DJ：そうですね。

増田：島田さんのように地域にいらっしゃる方にサポートしてもらえると、とっても助かると思ひますよ。

DJ：本当にそうだと思います。先生方にとって、地域の事が分かる方がいらっしゃると、本当に有り難いと思ひますよ。島田さんがコーディネートした町探検は、どんなものになりましたか。

島田：これまでは、お店を3か所見学していたそうなんです。でも、先生たちが「今年度は10か所行きたい！」ということで、私に依頼が来ました。そこで、小田地域課の校区担当さんや地域の方にご協

かしていただいて、訪問先が増えて子どもたちは少人数でゆったり見学できる。そんな町探検をコーディネートしたんです。先生方は「10か所で質問ができ、子どもたちの活躍の場が増えました。」と、喜んでいただきました。中でも印象的だったのは、ベテランの先生、長く学校に居て下さっている先生でも「地域の人に頼っていいんですね！」と言われたことなんです。そしたら、私が「もちろんですよ〜！」とお返事して以来、たくさんの先生から「私たちの学年も！」ということで相談がありました。先生方がキラキラしたお顔で手応えを話されたり、授業のなかで子どもたちが生き生きとしている様子を見ることもコーディネーターの喜びなんです。

DJ：そうですね。学校や地域、子どもたちだけではなくて、お世話をしてくださっている島田さんまでもが Happy な気持ちになったということですね。学校の先生って、子どもが帰っても遅くまでお仕事をされているとよくお聞きするんですけど、地域の方がお手伝いしてくださると、先生方のご負担も減るのかなぁと思うんですけど。

増田：多くの先生方は、何でも自分でしないといけないといつも思っていて、地域の方に支援してもらおうという経験があまりないと思います。地域の方にお願いしていいのか、どんなことをお願いできるのか分らないんだと思いますよ。

DJ：でも、この町探検で、地域の方にお手伝いいただくと、子どもたちの学習が充実しますし、先生方も助かると気付かれたでしょうね。これまでに島田さんに先生方からたくさんのご相談があったということですけど、その他にはどんな活動をされているのかご紹介いただけますか。

島田：はい。昨年は3月に緊急事態宣言が出ましたよね。小学校が休校のまま4月になりました。そして、6月に学校が再開しました時に、子どもたちの登下校に使っている歩道橋の工事と校区内にある保育所の建て替え工事が始まってしまったんです。子どもたちの登下校のルートが変更になりました。

DJ：とても大変なことが重なってしまいましたね。

島田：そうなんです。地域の方もそんな状況を理解してくださって、大勢の方が子どもたちの登下校を見守ってくださいました。そのお陰で、子どもたちは安心して安全に登下校することができたんです。地域の方と子どもたちが笑顔で挨拶を交わすうちに顔見知りになって、工事が落ち着いてからも、有志の活動として、あいさつと見守り活動を続けてくださっているんです。

DJ：そうですね。先生、保護者、地域の皆さんと一緒に子どもたちを育てているんですね。

島田：はい。子どもたちも地域の方に大切にいただいていることを感じていて、3学期に、子どもたちから「地域の方にお礼の手紙を書きたい」という声があがり、お手紙の贈呈式を行いました。子どもたちから直接、感謝の気持ちを伝えたところ、地域の方は顔をほころばせて喜んでいたんですよ。

DJ：地域の方は、本当に嬉しかったでしょうね。他に、島田さんが、やってよかったなぁと思う取組みはありますか。

島田：はい。コロナ禍だからできた活動ということで、「楽しめる給食中の7分間を子どもたちに届けませんか？プロジェクト」をやりました。浜小学校には、30年以上続くPTA有志による読書週間の手作

り大型紙芝居読み聞かせ活動がありました。でも、最近は著作権の問題や働く保護者も増えていて、続けていくことが難しくなっています。でも、この伝統を絶やさず、違う形にリモデルできないか地域学校協働本部(Happy 応援ネット)の中でも1年以上検討してきました。そんな中、コロナ禍で給食の時間は、子どもたちは話もできず、前を向いて黙々と食事をしているということを知りました。少しでも楽しい給食の時間になればと思い、地域の有志に加え、図書ボランティア、地域の中学生や高校生にも参加していただけるプロジェクトを立ち上げました。DVDを作って、教室のテレビから子どもたちに見てもらったんですよ。

DJ：どんな動画のDVDになりましたか。

島田：これが結構いろんな種類があって、「絵本の読み聞かせ」「手作りの紙芝居」「音楽の演奏」などです。予想を超える数の動画が寄せられたんです。

DJ：すごいですね。

島田：「動画の日は、給食の準備や食べ方にもメリハリが出ます。」「子どもたちに笑顔が戻ってきました。」と先生が放映中の様子を教えてくださいました。

増田：動画での読み聞かせだと、録画の時間を調整できるし、働いている保護者が仕事を休まなくても参加できるという思わぬ発見もありましたね。また、活動の自粛や発表の機会を失った中学生や高校生も参加することができて嬉しいという声がありました。

DJ：とても素晴らしい取り組みですね。「コロナに負けない！」大変な中でも子どもたちを笑顔にしたいという島田さんや地域の方の熱い思いがすごく伝わってきました。では最後に、島田さんが目指す、地域と学校の間を教えてください。

島田：そうですね。「学校が身近に感じられること」何かあれば、地域の方が「自分が学校に言うとかわ！」と連絡も密にできて、お互いに「お願いしたい?」「協力したい!」「頼んでよかった!」「やってよかった!」「またやりたい!」「次は何かな?」ってなればいいのかなんて思っています。そして、いつも元気な「浜っこたち」がHappyな顔をしている、そんな浜小学校になればいいなと思っています。

DJ：そうですね。これからも、Happy 応援ネットの皆さんと一緒に、子どもたちを笑顔にする取り組みを拡げていけるといいですね。さて、今回は島田さんと増田さんにお話をお伺いしました。お二方、どうもありがとうございました。

島田・増田：ありがとうございました。

DJ：さて、来月7月は、尼崎北小学校のコーディネーターの能登さんにお越しいただき、「地域全体で子どもたちを支える尼崎北小学校の地域学校協働活動」というテーマでお送りします。それでは、次回の放送もどうぞお楽しみに。